

小規模校における「学び合い」による授業改善

研究代表者 和歌山大学教職大学院 中山 眞弘
 共同研究者 有田川町立石垣中学校 鈴木 健治
 有田川町立石垣中学校 全教員

1. はじめに

和歌山県内では、児童・生徒数の減少が著しく、多くの学校で小規模校化が進んでいる。山間部の学校では、統廃合も一時進められたが通学距離の限度からこれ以上は難しくなっている。そこで、今後複式学級や少人数での授業改善が急務となっている。中でも中学校においては、複式学級での授業は教育課程上難しく、少人数での授業が営まれているのが現状である。その際、子どもたち同士の意見や考えを交流し深めることが難しいという課題があげられる。生徒数が少ないため、多様な意見が出づらく、いわゆるアクティブラーニングが実践しづらい環境にあるとも言える。また、小規模校ゆえに教員が少なく、学習指導力の向上をめざした授業研究を進めにくいという課題もある。

このような課題を受け、有田川町立石垣中学校では、昨年度に引き続き授業改善の視点を共有し全教師が年に一度以上「学び合い」を取り入れた研究授業を実践し、個人の授業実践力を高める取り組みを行った。各教科を担当する教員が1名のみの配属となっている中で、教科の枠を超えた視点で改善テーマを共有して全教員が授業を行うことで、授業改善に結びつけていくことができ、目指す授業を支える学習指導の基礎基本も共有できると考える。

2. 学校概要

有田川町立石垣中学校は、有田川中流の農村地帯に位置する小規模校である。地域は相互扶助の気風が高く、学校教育に対しても協力的である。また、生徒は明るく実直で、まじめに取り組む姿が見られ、学力の定着度も比較的に高い。

近年、生徒数が減少する中、集団活動を工夫しながら活性化を目指している。また、地域行事の「あじさい祭り」「ふれあい交流会」など地域の一員として活躍する場も設けている。



【石垣中学校の外観】

【研究主題】

「小規模校の特性を生かした基礎基本の定着を図る指導の在り方」
 ～学び合う活動を通して～

【生徒数】

学年	1年		2年		3年		計	
生徒数(人)	男子3	女子3	男子7	女子6	男子3	女子1	男子13	女子10
計(人)	6		13		4		23	

【職員数】(人)

学校長1、教頭1、教員10(内非常勤3)、養護教諭1、職員5 計18

3. 活動内容

3.1. 研究協議の視点統一

研究協議の方法については、昨年度進めてきたワークショップ型の協議を引き続き行うことにした。教科の枠を超えた協議を進めるため、常に授業を参観する2つの視点を設け、その視点について協議を深めるようにしている。この2つの視点は、授業者が本時の授業をするにあたってこだわった点を視点として設定された。そうすることで授業本来の改善すべき点が焦点化され、教科専門に偏るのではなく、授業方法に対する協議を図ることができた。

ワークシート

	視点1：ペアやグループの学習が既習事項を活用する活動になっていたか。	視点2：グループの考えを発表する場面での教師の支援・指導が適切であったか。
成果	付箋 付箋 付箋 付箋	付箋 付箋 付箋
課題	付箋 付箋	付箋 付箋
改善策	付箋 付箋 付箋	付箋 付箋 付箋



【協議の視点と協議用ワークシートのモデル】

3.2. 研究授業

研究授業は、全ての教員が実施し月に1回程度「学び合い」の場面を必ず取り入れた授業を行った。以下に実践された授業の概要を示す。(校内独自での授業研究は含まれない。)

*展開部の下線部が「学び合い」の場面

【第1回研究授業】平成30年5月18日(金)6限目 授業者：鈴木 健治 教諭

学年・教科領域： 第2学年 社会科

単元名：世界から見た日本の姿

展開：

学習活動・内容	授業形態
①産業の分類を復習する	<u>ペア</u>
②主な国の産業別人口比率のグラフからの気づきを発表する	一斉
<u>日本は今後第何次産業に力を入れるべきか？</u>	
③それぞれの産業のメリット・デメリットを考える (3つの産業それぞれ2ペアずつ)	<u>ペア</u>
④日本は今後第何次産業に力を入れるべきかを考える (3つの産業混合で4グループ)	<u>グループ</u>
⑤各グループの考えを発表し検討する	全体共有
⑥「第一次産業」「第二次産業」「第三次産業」全ての課題に着目して最終的な自分の考えを書く	個人

【第2回研究授業】平成30年7月11日(水)6限目 授業者：一角 憲宏 教諭

学年・教科領域： 第3学年 理科

単元名：酸・アルカリと塩

展開：

学習活動・内容	授業形態
①身近な中和の利用・実験から課題を見いだす 酸の水溶液とアルカリの水溶液を混ぜたとき、それぞれの性質が弱まるのはなぜか？	一斉
②予想する	個人
③資料 A,B それぞれを担当する 2 人組のペアをつくり、それぞれの資料の間を解き、説明できるようになる 【資料 A】塩酸に水酸化ナトリウムを加えていったときの変化 【資料 B】水酸化バリウムに硫酸を加えていったときの変化	ペア 1
④ペアを変えてそれぞれの資料について説明する	ペア 2
⑤ 2 つの資料から課題についてイオンのモデルを使って考察し、ホワイトボードにモデル図を書き、説明できるようにする	
⑥ペアを変えて課題についてホワイトボードを使って中和を根拠に説明する (相手の説明についてわかりやすかったところや自分の説明に欠けていたところに注目し交流する)	ペア 3
⑦説明を受けて自分の言葉で課題について説明する	個人

【第 3 回研究授業】平成 30 年 10 月 24 日（水）5 限目 授業者：赤井 波季 講師

学年・教科領域： 第 3 学年 英語科

単元名：「Unit5 Living with Robots - For or Against」

展開：

学習活動・内容	授業形態
①前時の復習をする（ディベートの進め方について確認する）	一斉
②本時の課題を理解する 将来住むなら都会と田舎、どちらがよいか、英語で討論しよう！	
③ペアになり討論の内容を準備する	ペア
④ディベートを行う ・相手の意見に対する反論や自分たちの主張を既習の表現を使ってまとめて述べる（時間制限あり）	全体
⑤ディベートのジャッジをする	全体
⑥本時の振り返りをする	個人・全体

【第 4 回研究授業】平成 30 年 10 月 24 日（水）6 限目 授業者：T1 北 周平 講師

T2 南 雄次郎 講師

学年・教科領域： 第 1 学年 体育科

単元名：武道（剣道）

展開：

学習活動・内容	授業形態
①着装、竹刀・防具の準備	一斉

②準備運動・リズム剣道	
③前時の授業を振り返り、本時の学習内容を確認する	
技の特性を考えて攻めや守りの連続動作を考え合う！	
④技の攻防を実践しながら考える	ペア
⑤グループで集まり中間報告をする (つまづいている点をアドバイスし合う)	グループ (3人×2)
⑥続きを考え、完成したペアから練習する	ペア
⑦各ペアで発表する	全体
⑧本時の振り返りをする	
⑨後片付け、次時の確認をする	

【第5回研究授業】平成30年12月7日(金)6限目 授業者：南 雄次郎 講師
 学年・教科領域： 第1学年(特別支援学級) 生活単元学習
 単元名：ボーリングピンを完成させよう
 展開：

学習活動・内容	授業形態
①本時の学習内容を確認する	一斉
②前時の学習を振り返り、本時の流れを確認する	
③準備物を用意する	
④レイアウト・計画表を確認しながらボーリングのピンを製作する	対話
⑤片付けをする	
⑥教室でゲームを実践し確認をする	
⑦教室の整理	一斉
⑧振り返りを行う	

(一人学級のため教師のとの対話を重視している)

【第6回研究授業】平成31年1月30日(水)実施予定

4. 成果と課題

本研究は2年目を迎え、協議の進め方や「学び合い」という共通のテーマに対する教員の見解などが意思統一されてきている。このことは、子どもの深い学びにつながっており、子どもの授業のようすや発言などからその成長を窺うことができた。石垣中学校では「学び合い」をテーマにして取り組みを進めてきて3年目を迎えるが、現在の3年生がちょうど1年生からこの取り組みを進めてきたことになる。この3年生は4人の学級ではあるが、当初はペア学習を中心に進めてきたが、安易なペア学習ばかりではなくジグソー法やディベートを用いるなど、形態を変えていくことにより、子どもの実態に応じた授業方法を工夫することで、子どもの言語能力を効果的に成長させることができていた。

今後は、授業方法の改善だけでなく、教師が授業構成の中でどの視点に着目することで、子どもの基礎学力を定着することができるのか研究を進める必要がある。